家庭数

令和３年１１月３０日

保護者様

横浜市立大豆戸小学校
校長　田副　聡

令和３年度　全国学力・学習状況調査の結果について

令和３年５月に全国の小学校６年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の調査結果の概要をお知らせします。

《学力・学習状況調査結果概要》

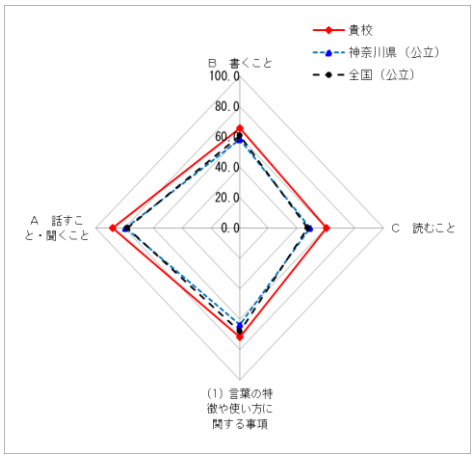
◎‥良いところ
▲‥伸ばしたいところ

平均正答率（%）

	国語	算数
大豆戸小学校	７２．０	８０．０
全国との差	+７．３	+９．８
神奈川県	６３．０	７０．０
全国	６４．７	７０．２

国語について

学習指導要領の４領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」）における結果から



◎「話すこと・聞くこと」「読むこと」において、全国の平均正答率を１０ポイント以上上回りました。
「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国の平均正答率よりも３～５ポイント上回りました。

特に正答率の高かった問題

◎「話すこと・聞くこと」において、「資料を用いた意図を理解する」問題では、全国の平均・県の平均を１５ポイント近く上回る高い正答率でした。適切な資料を活用して話す力が身に付いています。

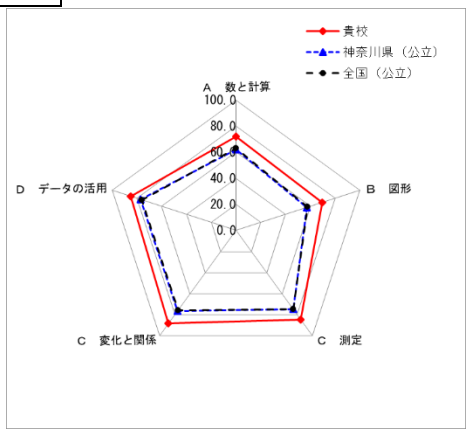
◎「読むこと」領域の「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」問題や、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」問題において、全国の平均・県の平均を１５ポイント近く上回る高い正答率でした。多様なテキストを正確に読解し、目的や意図に合わせてまとめる力が身に付いています。

課題として

▲「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題群のなかで、全国の平均正答率を１．１ポイント下回る設問がありました。これまでに学習した漢字を日常生活の中でも積極的に使うことを意識できるよう継続した指導を行っていきます。

算数について

学習指導要領の５領域（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」）における結果から



◎全ての領域において、全国の平均正答率を１０ポイント近く上回りました。

特に正答率の高かった問題

◎「変化と関係」領域において、「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」かどうか問う問題において、全国の平均・県の平均を２０ポイント以上上回る高い正答率でした。速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方についての理解力、それを求める技能が身に付いています。

◎「データの活用」領域において、「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」かどうか問う問題において全国の平均・県の平均を１５ポイント以上上回る高い正答率でした。データを分類整理し、統計的に問題解決を行う能力が身に付いています。

課題として

▲「数と計算」領域の「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を１としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる」かどうかを問う問題で、全国の平均・県の平均を上回っているものの、学年全体の正答率が５割前後にとどまりました。問題解決の場面において自分が考えたことやその理由について、式・図・表などの数学的表現を用いて説明する学習活動を、今後、さらに充実させていきます。

《学習・生活意識調査結果概要》

◇‥良い傾向
◆‥心配な傾向

《家庭や地域に関すること》

本校では、

◇朝食を毎日食べている児童が、神奈川県や全国と比べて多い傾向にあります。
◇毎日同じくらいの時間に寝たり起きたりできている児童が、神奈川県や全国と比べて多い傾向にあります。
◇多くの児童が、携帯電話やスマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っています。
◇学校の授業時間以外で、１日当たりの勉強時間が、神奈川県や全国の平均と比べて大変多い傾向にあります。
◆普段、ゲームをする時間の長い児童が、神奈川県や全国と比べて多い傾向にあります。
◆今住んでいる地域の行事に参加している児童が、神奈川県や全国と比べて少ない傾向があります。

《学校に関すること》

本校では、

◇多くの児童が学校に行くのが楽しいと思っています。
◇自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う児童が、神奈川県や全国と比べて多い傾向にあります。
◇学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童が多くいます。
◆いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童が、神奈川県や全国と比べて少ない傾向にあります。
◆人の役に立つ人間になりたいと思う児童が、神奈川県や全国と比べて少ない傾向にあります。

《自分自身に関すること》

◇自分にはよいところがあると思っている児童が多くいます。
◆将来の夢や目標を持っている児童は、全国平均と同程度か、やや少ない傾向にあります。

《新型コロナウイルス感染症による一斉休校期間に関すること》

本校では、

◇休校期間中に勉強について不安に感じていた児童の割合が低く、計画的に学習を続けることができた児童が多くいました。

《課題・改善点》

長く本校の課題であった「児童の自己肯定感が低い傾向にあること」については、今回の調査結果では、大きく改善されていることが明らかになりました。その一方で、将来の夢や目標を持っている児童が少ないことから、今後、キャリア教育等の充実を図り、人の役に立つことの嬉しさや、人の役に立つ仕事をすることの大切さを実感できるような取組を大切にしていきます。

生活意識においては、「規範意識」を高めるために、普段の生活の中で、学校や社会のルールを守ること、規則正しい生活を送ることの大切さなどについて、継続した指導をしていきます。その際、指導されるからルールを守るというのではなく、なぜ、そのルールが存在しているのか児童が考え、自分から正しい行動をとれるようにします。また、日々、児童に温かい声かけを行ったり、友達と認め合う場面をつくったりすることなどを通して、自尊感情を高める取組を継続していきます。